

2級 【パターン】傾向と対策

1. 作図・パターン展開

<身頃・ポケット>

- ・課題のシルエットは、基本的な3面構成のジャケットであり、前身頃は原型のバストダーツを衿ぐり・袖ぐりに分散、さらに前プリンセスラインに分散し、ウエストダーツにマニピュレーションで処理すべきであるが、アゴダーツになっているものも多く見られ、その結果、胸ぐせの分散のバランスが悪く、袖ぐりが大きすぎるものがあった。また、ウエストダーツ分量が多すぎたり、小さすぎたりしているため、身頃のシルエットが崩れてしまったために減点されたものもあった。
- ・脇身頃（細腹）の形が悪く（おそらく4面構成パネルラインのジャケットの切替線と混乱してしまったため、脇身頃が太くなってしまったと思われる）、減点されたものもあった。
- ・ウエストのしぼり具合（特に後ろ脇でのしぼり分量が少ないものが多かった）のバランスが悪いため、シルエットが悪く、減点されたものがあった。
- ・後ろ肩線のいせ分量が多すぎ、シルエットを崩しているものがあった。
- ・後ろ中心線やパネル線が直線的な線で、バストやウエストライン位置で角になっているものがあった。本来は上から下までスムーズなカーブ線になっていなければならない。

<ラペルと衿>

- ・課題のデザインはノッチドラペルであるが、ラペル幅・きざみ・上衿とのバランスが取れていないものが多く、デザインを読むところまで至っていないのは残念である。
- ・衿の製図方法はさまざまあるが、後ろ中心での衿腰と衿幅の関係、衿付け線と衿の外回りの関係が悪いため、減点されたものが多かった。

<袖>

- ・袖の製図にはさまざまな方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきであるが、袖山の高さが低すぎたり高すぎたり、また、袖幅が広すぎたり狭すぎるといった欠点が見られた。さらに、袖山のいせ分量が多すぎたり少なすぎたり、袖山の形状が不自然だったり、適切ないせ分量・袖形状で描けていないものが目立った。

2. 提出用ファーストパターン

- ・ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること。全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状・つながりが縫製時を設定して考えられていることも大切である。作図後にパターンをトレースし、ラインの形状・つながりを確認し、必要事項を書き込んでファーストパターンを完成させるが、時間的に余裕がなく、とりあえず作図をトレースしてファーストパターンとしているものもあった。線が一定した太

さと濃さで描かれていることも重要である。2級の完成度に達しないものが多かったと思われる。

- ・課題に設定された着丈・袖丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印（縫い止まり・明き見せ止まり）・ボタンなどが記入されていること。さらに、見返し線の描き忘れ、見返し線と返り線の混同には注意していただきたい。そして、必要なパターンが全て揃っていること。特に、ポケットなどパーツパターンの描き忘れがないように、最終確認を確実に行っていただきたい。
- ・ファーストパターンは作図パターンを別紙に、別々にトレースして、名称・記号・合い印など、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。